

「可愛小学校の薩摩国分寺跡・泰平寺公園の石碑調査の取組」

1 学校名

薩摩川内市立可愛小学校

2 学年・人数

第3学年（111人）・第6学年（105人）

3 日時・場所

(1) 学習会等の日時・場所

平成30年4月～5月 3年生：社会科「学校の周り（校区探検）」

平成30年10月～12月 6年生：ふるさと・コミュニケーション科
「薩摩川内の歴史」

(2) 発表の日時・場所

平成30年4月～5月 社会科の学習で資料作成・発表

平成30年11月以降 ふるさと・コミュニケーション科で資料作成・発表

4 活用に取り組んでいる史跡の名称・時代・特徴について

(1) 名称・時代

- ・ 薩摩国分寺跡（さつまこくぶんじあと）：741年
- ・ 泰平寺公園（たいへいじこうえん）の「未来へ語る歴史像」（豊臣秀吉・島津義久和議の像）：1582年

(2) 特徴

薩摩国分寺・・・ 聖武天皇の詔により、諸国に建てられた勅願寺の1つ。

建物は、中軸線上に南大門・中門・金堂・講堂・北門を配置し、金堂前方の東よりに棟が、西に西金堂がある。

現在は、「薩摩国分寺跡公園」として整備されている。

「未来へ語る歴史像」・・・ 豊臣秀吉が1587年に薩摩に進行した際、大小路長の太平寺に本営を構えた。降伏を決意した当主・島津義久は、頭を剃って僧となり、秀吉と対面して和議を結んだ。

その際の会見の様子を表した像が公園内に設置され、現在に伝えられる。

5 保存会や地域との連携の具体

薩摩国分寺跡については、3年生・6年生とも、「ふるさと歴史資料館」の方々から話を聞いた後、映像を見せていただいたり、資料を調べたり、現地へ赴き写真を撮ったりして調べる。まとめたことを各教室に掲示したり、発表したりしている。

泰平寺の隣に泰平寺公園があり、碑文や和睦の像、当時の泰平寺の住職の墓などが残されている。「21世紀」のまちづくり事業の一環として、この像（未来へ語る歴史像）が制作された。

6 活用の取組の工夫した点

3年生 3つのグループに分かれ、校区の史跡を調べに行った。どんな史跡があるか知っている子供でも、その起源や意義については知らない子供が多く、昔の

制度や市の様子等と関連させながら調べた。発表の際は、校区地図を示しながら、特徴的な史跡等を工夫しながら紹介していった。

6年生 写真やイラストを活用し、壁新聞や紙芝居にまとめた。相手意識・目的意識を明確にし、調べたことのが中心が伝わるよう、発表の形態を工夫した。また、各グループ課題を設定し、取り組むことができた。

7 取組の様子（研究発表、創作劇等）



【泰平寺公園の未来へ語る歴史像】



【国指定史跡：国分寺跡】



【泰平寺公園の石碑】



【薩摩国分寺建設時の想定図】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【児童A（3年）】

校区のことを知ることができた。また、よく知っている場所でも、こんな由来があったのだなと勉強になった。

【児童B（3年）】

発表の時に、国分寺を絵で表し、特徴や様子を伝えました。学級の中だけの発表だったけど、他の学級の学習内容も掲示されていたのでよかった。

【児童C（6年）】

グループでテーマを設定し課題を追究しました。薩摩藩が果たした役割や、郷土の様子を同時に調べ、薩摩川内市の歴史について詳しく知ることができた。

【児童D（6年）】

社会科で学んだこととつなげながら調べていくことで、他の地域や県にはどんな物があるのだろうと興味をもった。また、実物がどんなものかを想像してみた。

【地域の方】

薩摩川内市の歴史が未来に語り継がれていくことを願って、清掃活動や美化活動を行っている。

【職員】

史跡や跡地を知っている子供は多かったが、由来を知っている子供はそれ程多くなく、地元の素材から学ばせることで、郷土を愛する心を育てることと、社会科的な視点をもって取り組ませることの大切さを改めて考えることができた。